



今年の干支はウサギであり、六十干支では癸卯（みづのとう）だそうです。これには「冬の門が開き、飛び出る」という意味があるとの事です。コロナ禍で、なかなか外出する事が出来ない状況が長く続いておりますが、今年は以前のように、利用者の皆さんが地域での行事や買い物などに出かけられる年になればと願うばかりです。

社会福祉法人創樹会 理事長 田中創

あけましておめでとうござい
ます。皆様におかれまして
は新春を清々しい気持ちでお
迎えることとお慶び申し上げ
ます。



理事長 新年挨拶



新たな暮らしへの飛躍



昨年十月二日、西山堅太郎統括園長の退任に伴い、統括園長に就任いたしました。故田中了諦園長、西山園長の姿を思い浮かべると、「今の私にできるのだろうか」と職責の重大さに戸惑っているのが、今の正直な気持ちです。

新年おめでとうございます。
皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。



統括園長 新年挨拶

ここまで、たくさんの失敗とほんのわずかな成功体験を経ながら、あつと言う間に三十数年が過ぎた気がしています。私が無事に働いてこられたのは、利用者・ご家族、職員ほか、関係者の皆さんのご協力のおかげと感謝しています。これからも微力ではありますが、「皆さんの声にしっかりと耳を傾け」「私のできることを」「創意工夫、改善しながら」「一歩ずつ前を向いて進んでいきたいと考えています。西山園長が退任の際に私たち職員へ残して下さった「人間力」「受容力」「寛容力」の言葉を大切にしながら、職員一人ひとりが元気に生き生きとやりがいを持って働くことができる法人・組織作りをみんなで協力して目指していきます。今後とも皆様方にはご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人創樹会 統括園長 細羽 正樹



ぶちええね

職員インタビュー

さくら／荒木 郁海

入職のきっかけ

大学生の時、ONE-すてっぶと福山六方学園で、アルバイトと実習をさせていただきました。その時に、職員の方々が利用者さんの気持ちに寄り添った支援をされていた。私も利用者さんの気持ちを大切に支援ができる職員になりたいと思いました。また、職員の方々がとても丁寧に指導してくださいました。創樹会で学びながら成長していきたいと感じ、入職を決めました。

仕事内容について

利用者さんのできる作業が増えるようにその方法を考えたり、利用者さんにとって難しい作業を行ったりしています。また、利用者さんがスムーズに作業が行えるよう一人ひとりの利用者さんに声をかけたり、準備をしたりしています。他にも、きれいに掃除をしたり、雑巾や布巾を

休日の過ごし方

入職したばかりの頃は家で寝て過ごすことが多かったですが、仕事に慣れてくると、趣味を楽しんだり、友達と会ったりして過ごすことも増えてきました。

心に残っているエピソード

最初は挨拶しかしていなかった利用者さんが、様々な話をしてくださるようになったとき、とても嬉しかったのを覚えています。また、七月から新しい作業が始まったのですが、最初は上手に作業ができなかった利用者さんが、作業の工夫や練習によってできるようになり、その作業を楽しみに笑顔を見せてくださるところを見ると、心が温かくなりました。

2022年10月1日～2022年12月31日

＊お名前・グループ名のみ紹介し、お礼にかえさせていただきます。(敬称略・順不同)
＊保護者・職員については記載していませんので、ご了承ください。

ご寄贈・ボランティア訪問

○ご寄贈 ・部谷礼子 ・中川利子
・株式会社福山冷機 ・関係者6名

実習生

○保育士	10月13日～10日間	福山市立大学	2名
	10月24日～10日間	福山市立大学	4名
	11月 8日～10日間	福山平成大学	4名
	11月18日～10日間	福山平成大学	4名

ありがとう
ございました

第17回「はじめまし展」
会期：2023年2月4日～4月2日
会場：鞆の津ミュージアム



あとかき

コロナ禍が続きながらも、世の中はこれまでの活動を取り戻してきていますが、ケアの現場ではなかなかそういきません。とはいえ、毎日は続きます。創樹会は10月より新体制となりました。わずかでも豊かな生活をつくれるよう、気持ちも新たに支援へ取り組んでまいります。(編集委員一同)

■題字：田中 盧雪 ■表紙：藤井 しげみ
■誌面イラスト・文字：内海 卓雄、佐々木 和徳
藤井 正彦、藤井 恵子

事業所一覧

- 福山六方学園(障害児入所施設)(障害児短期入所)(日中一時支援)
- あゆみ苑成人寮(障害者支援施設)(生活介護)(短期入所)(日中一時支援)
- サポートセンターひびきの家(共同生活援助)
- サポートセンター友の家(共同生活援助)
- サポートセンターかなで(日中サービス支援型共同生活援助)(短期入所)
- さわらび(生活介護)
- ヘルパーステーションあしと(居宅介護・行動援護)(移動支援)
- ONE-すてっぶ(児童発達支援)(放課後等デイサービス)(日中一時支援)(障がい児療育等支援)
- ふぁんたす(放課後等デイサービス)
- 相談支援センター風ぐるま(一般相談支援)(特定相談支援)(障がい児相談支援)
- さくら(就労継続支援B型)(生活介護)

発行日：2023年1月20日

発行元：社会福祉法人 創樹会 〒720-0832 広島県福山市水呑町7187番地1

TEL：084-956-0255 FAX：084-956-5749

swc@soujukai-fukuroku.or.jp https://soujukai-fukuroku.or.jp



創樹会Instagram



創樹会webサイト



住 所 | 〒720-0201 福山市鞆町鞆271-1
開館時間 | 10:00-17:00(月火休館) 入場無料
電話番号 | 084-970-5380
Webサイト | <https://abtm.jp>

雑貨作家さんと協働するものづくり

京都の雑貨ユニットPOP.POP.POPさんよりお声がけいただき、鞆の津ミュージアムの創作活動メンバー6名がコラボ商品を制作。9月9日～21日にかけて、D_MALL京都店で開催されたイベント『HIP.HOP.POP』にて、それらの雑貨を展示販売していただきました。『きょうの雑貨』展での出会いをきっかけに始まったこの協働は、障がいのある人と共にものづくりをする〈つくるポップ〉というPOP.POP.POPさんの新プロジェクトのひとつです。今回つくったのはトートバッグと小銭入れ。80年代のヒップホップカルチャーというテーマに合わせ、植木職人が使うフゴバッグを素材に使ったトートにはラジカセの絵をペイントし、小銭入れ「コゼニー」にはそれぞれ自由に絵を描いてもらった生地を提供したのですが、完成品は驚きの生まれ変わり！とてもたのしい雑貨に仕上がっていました。製品はたくさんのお客さんにお買い上げいただけたそうで、今後もこのような機会をつくっていけたらと思います。

鞆の津ミュージアム 津口 在五



鞆の津ミュージアムのweb shop 開店

10月10日、鞆の津ミュージアムのオンラインショップが開店しました。現状はひとまず、これまで開催した企画展の図録などをお買い求めいただけるかたちとなっています。今後は、法人の利用者さんがつくる作品を生かした雑貨など、オリジナルグッズも販売し、たのしい表現を皆さんに知っていただける機会をつくっていきたいと思っていますので、よろしければ、ご覧になってみてください。



tomonotsu.theshop.jp

展覧会情報

Exhibition information

開催しました

第7回『どや、〇〇じゃろ!』

10月29日～12月30日にかけて、広島県知的障害者福祉協会事業部会 文化・芸術活動の部が主催する展覧会、第7回『どや、〇〇じゃろ!』が当館を会場として開催されました。コロナ禍をはさんで3年ぶりとなる今回はこれまでとやや趣向をかえ、利用者さんそれぞれの日常と切っても切り離せない私的な物品や営みを集め、それにまつわるエピソードと一緒に展示。ふだんは知る機会のないごく個人的な「宝」の裏側にある持ち主のひそかな想いにふれることを通じ、互いの存在を認め合える文化がひろがっていけばいいなと思います。



次回予告

第17回『はじめまし展』

2月4日より、法人の恒例行事のひとつ『はじめまし展』が開催されます。昨年はコロナ禍のため開催できなかったこともあり、2年半ぶりとなる本展は今回で17回目を迎えました。暮らしの中であつた様々な創作的表現の中に、利用者さんそれぞれの感性や生き方を感じられるきっかけになればと思います。皆さま、どうぞ来館ください。



会 期: 2月4日(土)～4月2日(日) 10:00-17:00

休館日: 月・火曜日(祝日は開館)

永年勤続となる職員や、活動続ける利用者の皆さんをお祝いする恒例行事



勤労感謝の集い

職員表彰式

十一月二十三日、さわらびにて職員の永年勤続表彰を行いました。感染症対策のため規模を縮小し、三密に気をつけての式典となりました。初めに田中理事長よりコロナ禍で支援する職員へ労いの言葉があり、その後は、勤続五年から最長で二十五年の職員へ表彰状と記念品が贈られました。また、知的障害者福祉事業功労者表彰を三名の職員が受賞しました。今年は少人数での開催となりましたが、来年は例年通りできることを願っています。

事務局 川島 朋也



さわらび

今年のさわらびでの「勤労感謝の集い」では、3名の方が表彰されました。さわらび・きりりでは、今年もコロナ禍での規模を縮小した活動でしたが、一生懸命に創作活動に取り組み、楽しく活気ある毎日を過ごしました。

今回表彰された3名の方は、毎日元気にさわらびに通われ、様々な活動に意欲的に参加されています。大勢の前で表彰された為か、緊張した面持ちでしたが、嬉しそうな表情も伺えました。今後も感染対策を行いながら、利用者の皆さんが日々楽しく過ごせるような日課を計画し、支援を行っていききたいと思います。

藤田 実空



福山六方学園

11月23日に、福山六方学園で「勤労感謝の集い」を行いました。今年は、コロナ禍の影響もあり、各舎に分かれて表彰を行いました。

表彰式では、名前を呼ばれた子ども達が、緊張した面持ちで賞状を受け取っていました。その後、表彰された子ども達には、記念品が贈られました。表彰式での表情とは違い、素敵な笑顔も見られました。

今後子ども達が、健康で楽しい学園生活を送れるよう職員一同頑張っていきたいと思っています。

佐々木 かれん



サポートセンター友の家

サポートセンター友の家では、11月20日に「勤労感謝の集い」を行いました。

各ホームが友の家の集会室に集まり、全員マスク、換気をした状態で時間を短縮し行いました。各賞で名前を呼ばれ、緊張や喜びを感じられた表情の利用者の皆さんの様子が伺えました。

「来年も賞を貰いたい。」「来年も頑張るぞ!」と気持ちを新たにされている皆さんと一緒に、職員も頑張ろうと意気込む集いとなりました。

野元 亜衣

事業所ごとに工夫をこらし、うれしい時間を過ごしました

クリスマスのおたのしみ

ONE-すてっぷ

ONE-すてっぷでは、12月24日にクリスマス会を行いました。室内を飾り付ける時から、子どもたちはワクワクした様子。室内がいつもと違う雰囲気になり、職員による絵本の読み聞かせやペープサート、クリスマスクイズを楽しみました。曲に合わせて手拍子をしたり、クイズに正解すると「やったー!」「えー! 知らなかった!」と笑顔で喜んでいる姿がとても印象的でした。

子どもたちの楽しそうな声が聞こえてきたのか、その後サンタさんが登場! 一人ひとりプレゼントをもらい、みんな嬉しそうな表情でした。サンタさんと一緒に歌を歌ったり、記念撮影をしたりと素敵な時間を過ごしました。

岡田 里菜

さわらび

12月23日、さわらびにてクリスマス会を行いました。午前は、リースや日中活動で制作した壁面工作で室内を飾り付けるなど、職員と利用者の皆さんで準備を行いました。この日の給食はクリスマス仕様で、グリルチキンやナポリタンスパゲティなど普段よりちょっぴり豪華なメニューでした。

食事も終わり午後の活動時間になると、いよいよ待ちに待ったクリスマス会が始まりました。サンタクロースやトナカイの姿になった利用者さんからプレゼントを受け取り、皆さんとても嬉しそうでした。最後に、手伝ってくださった利用者さんたちもプレゼントを受け取り、その後は皆さんでケーキをおいしく食べました。

山口 慎平

さくら

12月23日、さをりひろば工房まちでクリスマス会をしました。午前中のボーリングでは、ピンの倒れた本数に喜んだり悔しんだり様々な表情でした。昼食は、色とりどりのおかずに迷いながら、皆さん美味しそうに食べていました。その後、プロジェクターで映される大画面映像で映画を鑑賞し、静かに楽しみました。お楽しみのイチゴケーキ・みかん・ジュースを食べて、最後はクリスマスのうたを歌って終わりました。「楽しかったね」と話しながら帰路につかれました。

中井 礼子

福山六方学園 ハロウィン

福山六方学園では10月29日にハロウィンパーティーを行いました。コロナ禍ではありましたが、みんな思い思いの仮装でホールに集まり楽しいひと時を過ごしました。モンスターになっている子ども、いつも以上にかわいらしい服装の女の子、ドラゴンボールのキャラクターになっている職員。みんなの笑顔が多く見られました。

いつも以上にたくさんおやつを食べて、子どもたちも練習したダンスを披露してくれ、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいました。コロナで大変な時期ですが、子どもたちが楽しめるようにとアイデアを出してくれた職員、準備を手伝ってくれた実習生の方々、なにより元気な子どもたち。みんなに感謝です。来年も素敵なパーティーをしたいです。

湯浅 晋吾

さくら 謎解きゲーム

9月29日、さくらにて謎解きゲームを行いました。さくらの職員に扮した怪盗を探し出すため、皆さんには五つの謎解きゲームに挑戦してもらいました。ゲームをクリアするとヒントシールがもらえ、そのヒントを並べ替えて怪盗を見つけ出しました。皆さん謎解きに苦戦され、ヒントの並べ替えでも、なかなか答えが出てこず、悩まれている方もいましたが、職員のヒントによりやっと答えが出たときはとても嬉しそうで、利用者さんのたくさんの笑顔を見ることができました。また、お昼はキッチンカーに来ていただき、チキンカレーを食べました。チケットを持って、キッチンカーでカレーと交換し、食事を楽しまれていました。

半日でしたが、たくさんの楽しかったという感想の多い行事になりました。

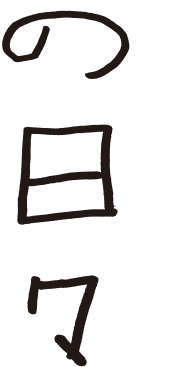
荒木 郁海

すてっぷ 園外療育

新型コロナウイルスの感染状況により、親子行事を控えていましたが、遂に親子で園外療育へ出かけることができました。

いちごクラスでは『笠岡恐竜公園』へ行きました。早く着いた子は、一足先に公園へ。職員が到着すると笑顔で駆け寄り、恐竜がいる所まで案内してくれました。自分達よりも遥かに大きい恐竜を見て、目をキラキラ輝かせている子ども達。「すごく大きいね!」と、あまりの大きさに圧倒されていました。そして、普段、活動で行く公園にはない遊具を見つけ、ワクワクしながら一目散に走って行きました。大好きなお母さん・お父さんや友だち、職員と一緒にたっぷり遊ぶことができ、子ども達も大満足。笑顔で溢れた一日となりました。

中山 茜理





創樹 らいぶらり

新設グループホームの
運営方法を検討する情報交換から発展し、
法人内に新たな勉強会が生まれました。

令和二年四月。法人内に重度の障がいのある利用者さんが生活される定員七名のグループホーム「かなで」が新設されました。法人内の長い歴史のなかで培われてきた経験を参考に支援体制の検討が重ねられ、期待と不安のなか、それまで異なる場所で生活されていた方たちの新しい共同生活が静かにスタート。しかしほどなくして、想定外のことや幾つも重なり、グループホームの生活を維持することが難しい状況に陥りました。この苦境を何とか乗り越えようと、法人では会議を重ねられます。どこの事業所も職員体制に余裕はありません。しかしそのような状況にあっても、「〇〇なら協力できる」ということがひとつふたつと集まり、試行錯誤を重ねる時間が流れていきました。その二方、「かなで」のサービス管理責任者と別の事業所の公認心理師と看護師、私の四名は情報交換を重ねていました。そして、世の中に溢れる情報の中から現状に近いものを見つけて共有し、支援の場にフィードバックしていくというこのやりとりは、しだいに勉強会へと発展。自分が欲しいと思う情報を収集するそのスタイルが図書館のようだったので、この勉強会の名前は「創樹らいぶらり」に。ちなみに平仮名の理由は「ぶらりと来（らい）てね」。気軽に参加してください、の意味が込められています。法人の風土のなかからできた「創樹らいぶらり」。次は誰かに協力できるようになりたいね、と話しています。

事務局長 山本 由紀子

創樹らいぶらりでは、利用者支援の新しいアイデアを得ることができます。利用者の行動に対して、直接的な対応で終わるのではなく、「その行動の前に何があり、その行動をすることで、どうなったのかや」その行動に潜む見えない部分（本人の特性や環境要因）からアプローチをする視点を学びました。知識を得るだけで解決するわけではないので、日々の支援で実践し、少しずつ手こたえを得ています。これからも各事業所の事例を通して学んでいければと思います。

サポートセンターかなで 枝廣 正寛

NEWS

働きやすい職場にむけて

当法人は、広島県が展開する「魅力ある福祉・介護の職場宣言ひろしま」において〈プラチナ認証法人〉となっています。この制度は、働きやすい職場として一定の水準を満たした福祉事業体を県が認証・公表するもの。職場宣言へ参加していない法人も含めて、県内にある約1,500法人のうち、プラチナ認証法人として県に認められているのは39法人（2022年3月7日現在）あり、そのうちのひとつが創樹会です。離職率の低さなど様々な条件をクリアし、プラチナ法人として認められました。これからも、利用者さん・職員がともにたのしくすごせる現場であり続けることができるよう、取り組みを続けてまいります。



プラチナ認証法人が集まって開催された交流会での様子

強歩

福山六方学園の創設当初から続く伝統行事。
コロナ禍の続く本年は中止する部署がほとんどでしたが
昨年同様、日程を分散して実施しました。

ONE-すてっぷ・すてっぷ・ふぁんたす

昨年同様、今年もコロナ感染症の影響を考え、法人全体ではなく部署ごとでの試歩実施となりました。

新任職員（ONE-すてっぷ一名、すてっぷ一名）と強歩未経験職員（ふぁんたす一名）が参加し、強歩経験職員を先頭に卸町を出発し、福山港く箕沖方面への往復約五キロを歩きました。

一時間に六キロ歩くペースは、実際に歩いてみると思ったより速いという驚きが、初めて参加した職員の最初の感想でした。実際のコースや距離を体感したうえで、「職員自身がこのペースを維持しながら、利用者の安全を守りながら、また励ましながら歩き切れるだけの体力をつけておく必要性」「安全に歩くための事前のコースの下見や歩くペースの確認」の大切さを感じてもらえたのではないかと思います。

ふぁんたす 池田 勇太

さわらび

十二月中旬、さわらびにて一日強歩を行いました。感染症のリスクを考慮し、例年と異なり事業所単位での開催、そして距離も短めと縮小した規模となりましたが、その中でも皆さんしっかりと歩かれていました。



さわらびを出発して向丘公園や荒神社で引き返すコース、竹ヶ端運動公園まで車で移動し、駐車場から外周をぐるっとまわる平地歩行コースなど、利用者さんの状態に合わせて様々に設定しました。当日は皆さんの体調も配慮しながら、無事に事故なく全員がゴールすることが出来ました。冬らしく寒い中、最後まであきらめず皆さん頑張られていました。

山口 慎平

ボランティアしてみませんか

コロナ禍で外出できない日が続くと、気分まで沈んでしまいますね。

創樹会は山の中にあり、草木に囲まれた中にぽつんと法人本部があります。

そんな自然の中で少々ではない草木を相手に奮闘していると、

いつのまにか寒さも忘れてなんだかすっきり。

きれいになるとみんなも嬉しい。無理をしない、焦らない、マイペースで。

お問い合わせは、メールにて受け付けております。

連絡先(担当:山本)

電話:084-956-0255

E-mail: swc@soujukai-fukuroku.or.jp

お気軽に
お問合せください

